



2017年3月期 第2四半期決算説明会



2016年10月31日

 **TOYOTA** 株式会社 豊田自動織機

I. 決算

1. 決算のポイント
2. 第2四半期の業績
3. 通期の業績予想

2017年3月期 第2四半期決算のポイント

1. 円高の進展が業績に大きく影響し、
売上高・利益ともに前年同期比で減少
2. 減収減益のなか、中間配当金については、
前年同期と同額を維持
3. 通期の予想は、為替レートを変更する一方、各事業で
台数増を織り込み、売上高・営業利益は据え置き

業績<2Q実績>

(単位:億円)

	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減	
				率
売上高	11,059	10,784	▲275	▲2.5%
営業利益	700	582	▲118	▲16.9%
経常利益	996	843	▲153	▲15.4%
純利益	679	609	▲70	▲10.3%
1株当たり 純利益	216円38銭	194円29銭	▲22円09銭	-
1株当たり 配当金	60円	60円	-	-
U S \$	122円	105円	▲17円	-
ユ ー ー 口	135円	118円	▲17円	-

- ・為替変動の影響を受け、売上高・利益ともに減少
- ・中間配当金は前年同期と同額を維持

セグメント情報<2Q実績>

上段:売上高 下段[]:営業利益

(単位:億円)

	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減		
				率	
自動車	車両	2,197	2,651	454	20.7%
	エンジン	836	838	2	0.2%
	カーエアコン用コンプレッサー	1,720	1,638	▲82	▲4.7%
	電子機器・鋳造品ほか	298	296	▲2	▲0.8%
	計	5,052 [153]	5,425 [135]	373 [▲18]	7.4%
産業車両	5,125 [479]	4,780 [393]	▲345 [▲86]	▲6.7%	
繊維機械	311 [17]	285 [17]	▲26 [▲0]	▲8.3%	
その他	569 [49]	292 [34]	▲277 [▲15]	▲48.6%	
合計	11,059 [700]	10,784 [582]	▲275 [▲118]	▲2.5%	

販売台数

(単位:千台)

	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減
RAV4 ヴィッツ	100	100	▲0
	47	44	▲3
車両計	147	144	▲3
ディーゼル ガソリン	137	149	12
	98	93	▲5
エンジン計	235	242	7
カーエアコン用 コンプレッサー	万台 1,488	万台 1,627	万台 139
産業車両	118	120	2
エアジェット 織機	2.4	2.6	0.2

車両 : 販売台数は減少したが、RAV4ハイブリッド車の比率増により、売上高は増加

エンジン : KD型ディーゼルエンジンは減少したが、日本に加えインドでの生産も含めたGD型ディーゼルエンジンの増加が売上高に寄与

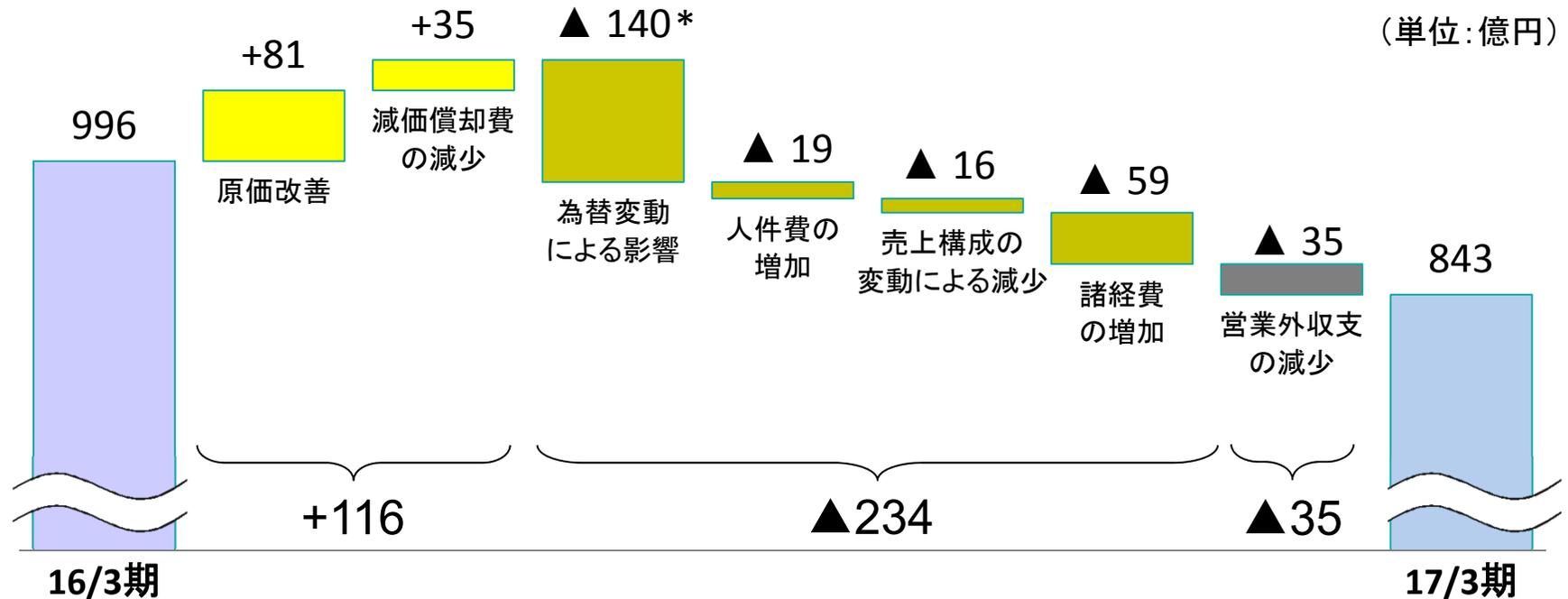
コンプレッサー : 各地域での販売台数は増加したが、為替変動の影響で売上高は減少

産業車両 : 欧州を中心に販売台数は増加したが、為替変動の影響で売上高・営業利益ともに減少

経常利益の増減要因 <2Q実績>

経常利益 ▲153億円 (996 → 843億円)

営業利益 ▲118億円 (700 → 582億円)

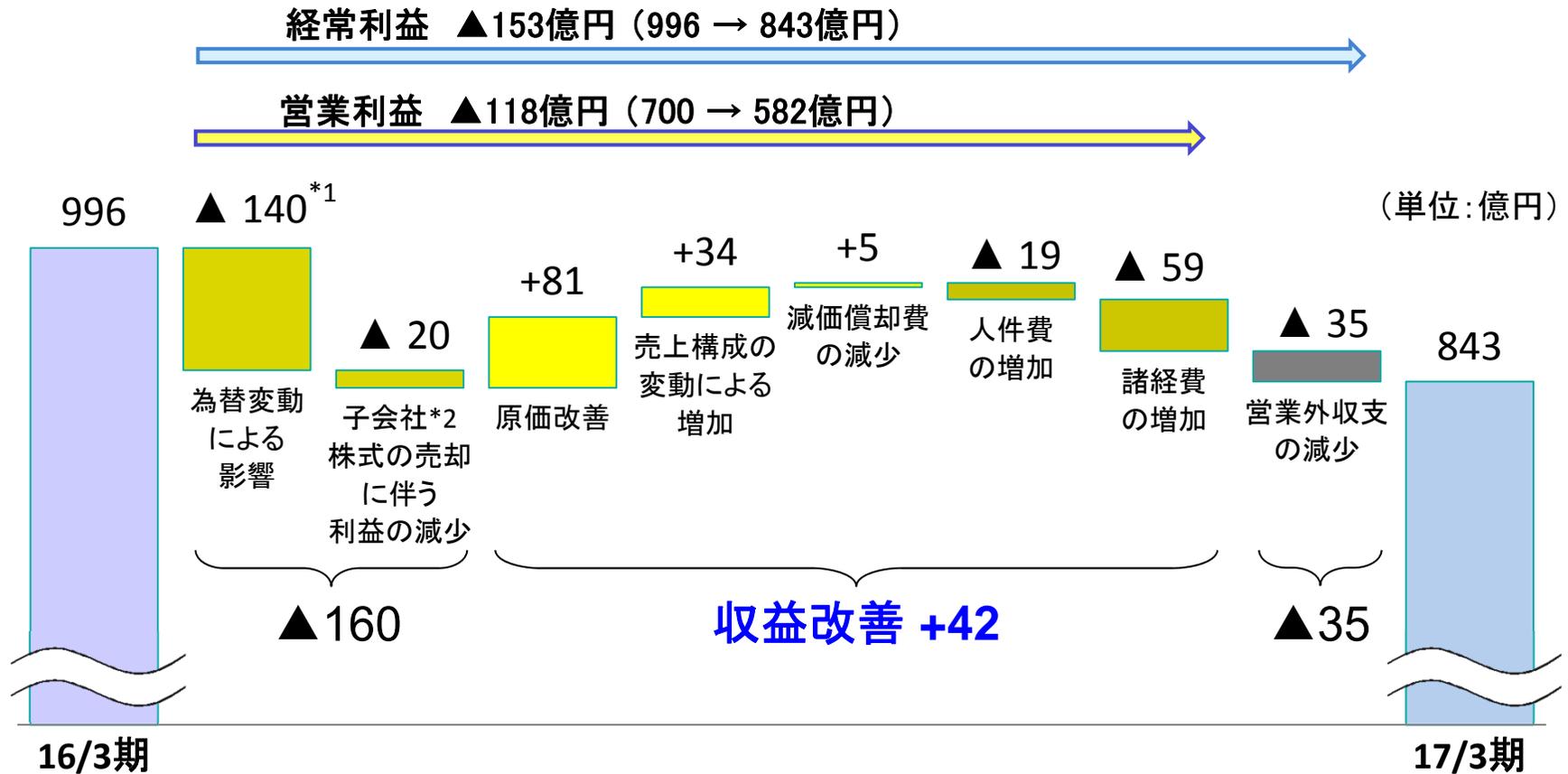


- ・コンプレッサーと産業車両を中心とした原価改善が利益に寄与
- ・為替変動による影響や、人件費の増加などが、利益へのマイナス要因

* 海外子会社の営業利益の為替換算分 ▲37億円含む

経常利益の増減要因 <2Q実績>

収益改善の進捗



・「為替変動による影響」と「子会社株式の売却に伴う利益の減少」を除いた実質ベースでは、収益改善が進む

*1: 海外子会社の営業利益の為替換算分▲37億円含む

*2: (株)アサヒセキュリティと(株)ワンビシアーカイブズ

業績<2Q実績>

(単位:億円)

	16/3期 2Q累計	17/3期 2Q累計	増減	
				率
設備投資	386	313	▲73	▲19.0%
減価償却費	378	343	▲35	▲9.1%

- ・エンジン、コンプレッサー、産業車両の設備投資が減少
- ・コンプレッサーを中心に、減価償却費が減少

業績<2Q実績>

(単位:億円)

	16/3期 期末	17/3期 2Q	増減	
				率
総資産	41,991	39,684	▲2,307	▲5.5%
純資産	21,139	20,384	▲755	▲3.6%
自己資本比率	48.5%	49.4%	—	—
連結子会社数	214社	209社	▲5社	—

・投資有価証券の時価評価の減少に伴い、総資産、純資産ともに減少

業績<通期予想>

(単位:億円)

	16/3期	17/3期	増減		前回発表
				率	
売上高	22,432	22,000	▲432	▲1.9%	22,000
営業利益	1,347	1,200	▲147	▲10.9%	1,200
経常利益	1,853	1,730	▲123	▲6.7%	1,770
純利益	1,830	1,190	▲640	▲35.0%	1,200
1株当たり 純利益	582円58銭	380円68銭	▲201円90銭	-	381円89銭
1株当たり 配当金	120円	120円	-	-	120円
U S \$	120円	103円	▲17円	-	105円
ユ ー ー 口	133円	114円	▲19円	-	120円

セグメント情報<通期予想>

上段:売上高 下段〔 〕:営業利益

(単位:億円)

	16/3期	17/3期	増減	率	前回発表
車 両	4,800	5,660	860	17.9%	5,350
エ ン ジ ン	1,582	1,670	88	5.6%	1,600
カーエアコン用コンプレッサー	3,426	3,270	▲156	▲4.6%	3,300
電子機器・鋳造品ほか	648	610	▲38	▲6.0%	700
自動車計	10,457 〔333〕	11,210	753	7.2%	10,950
産業車両	10,314 〔871〕	9,570	▲744	▲7.2%	9,900
繊維機械	656 〔41〕	640	▲16	▲2.6%	560
その他	1,002 〔93〕	580	▲422	▲42.2%	590
合計	22,432 〔1,347〕	22,000 〔1,200〕	▲432 〔▲147〕	▲1.9%	22,000 〔1,200〕

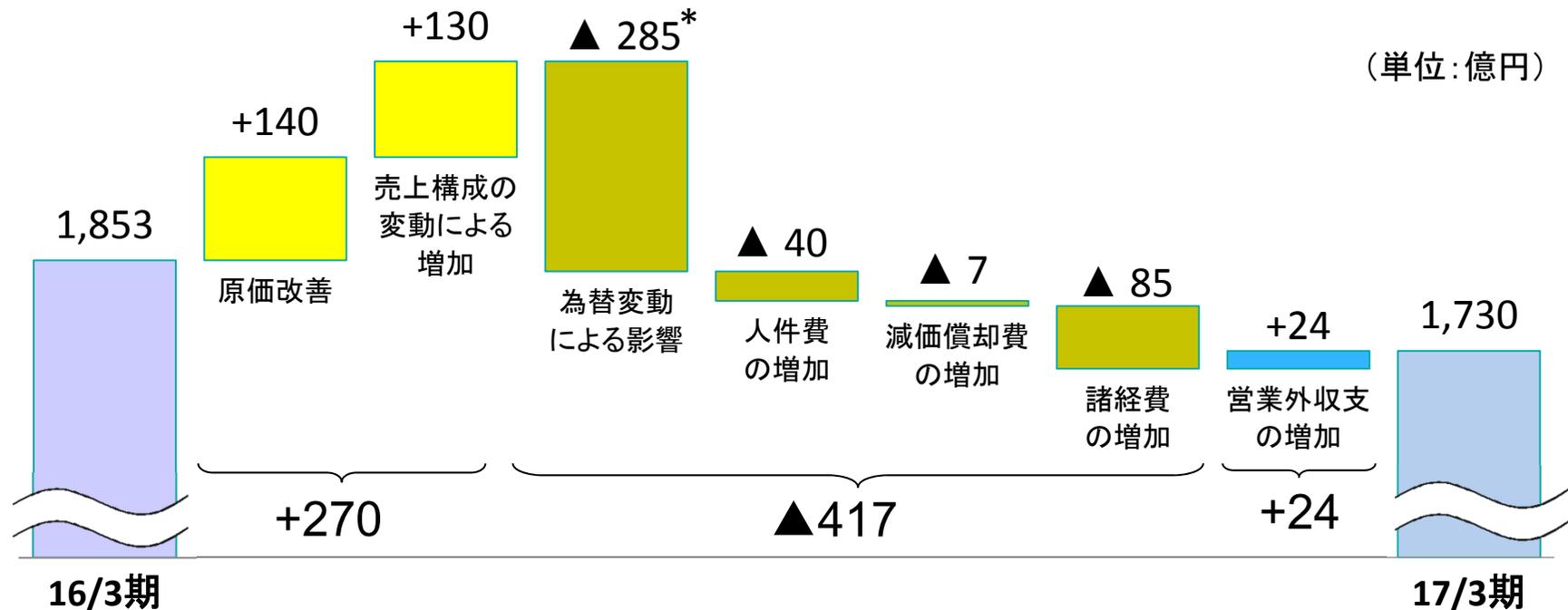
販売台数 (単位:千台)

	16/3期	17/3期	増減
RAV4	201	206	5
ウイッツ	92	104	12
車両計	293	310	17
ディーゼル	242	297	55
ガソリン	192	223	31
エンジン計	434	520	86
カーエアコン用 コンプレッサー	万台 3,037	万台 3,270	万台 233
産業車両	239	250	11
エアジェット 織機	6.2	6.3	0.1

経常利益の増減要因 <通期予想>

経常利益 ▲123億円 (1,853 → 1,730億円)

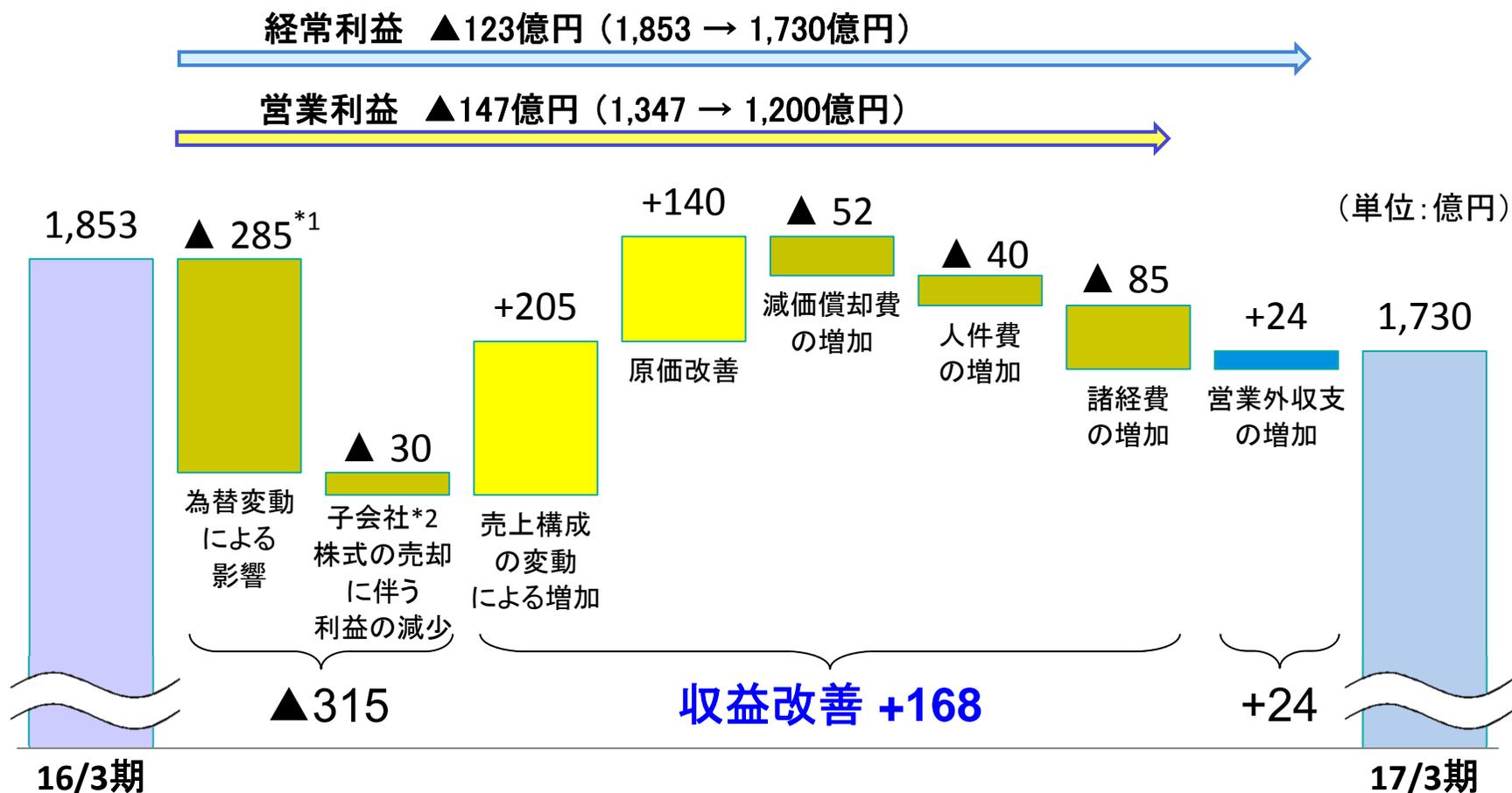
営業利益 ▲147億円 (1,347 → 1,200億円)



* 海外子会社の営業利益の
為替換算分▲111億円含む

経常利益の増減要因 <通期予想>

収益改善の進捗



*1: 海外子会社の営業利益の為替換算分▲111億円含む

*2: (株)アサヒセキュリティと(株)ワンビシアークイブズ

業績<通期予想>

(単位:億円)

	16/3期	17/3期	増減	
				率
設備投資	754	900	146	19.3%
減価償却費	773	780	7	0.8%

Ⅱ. 中期的な取り組み

産業車両

コンプレッサー

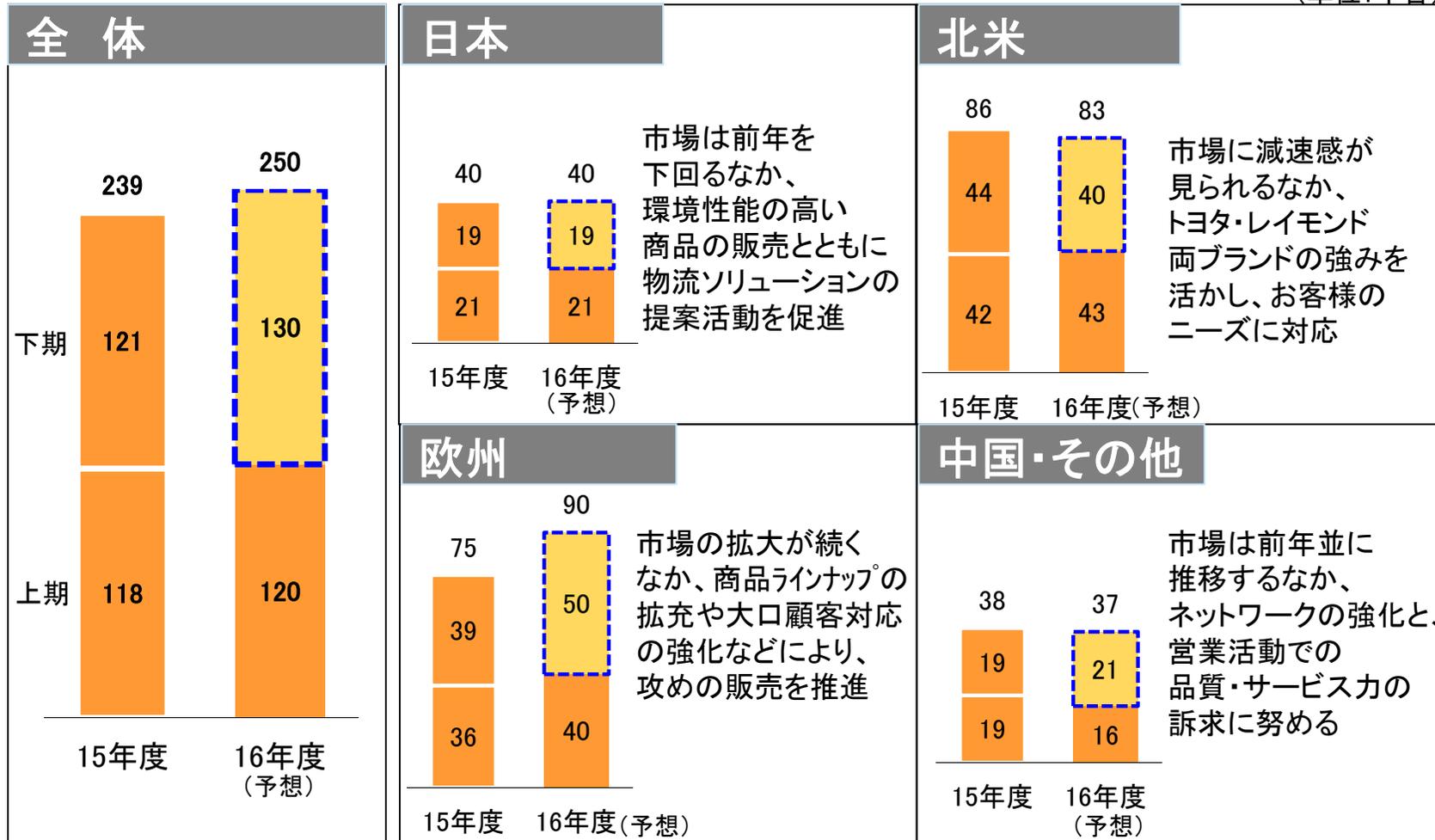
1. 足元の販売状況
2. 中期的成長に向けた取り組み
3. 他社を凌駕する商品開発
4. 物流ソリューション事業の強化・拡大
5. バリューチェーンの拡大

産業車両

足元の販売状況

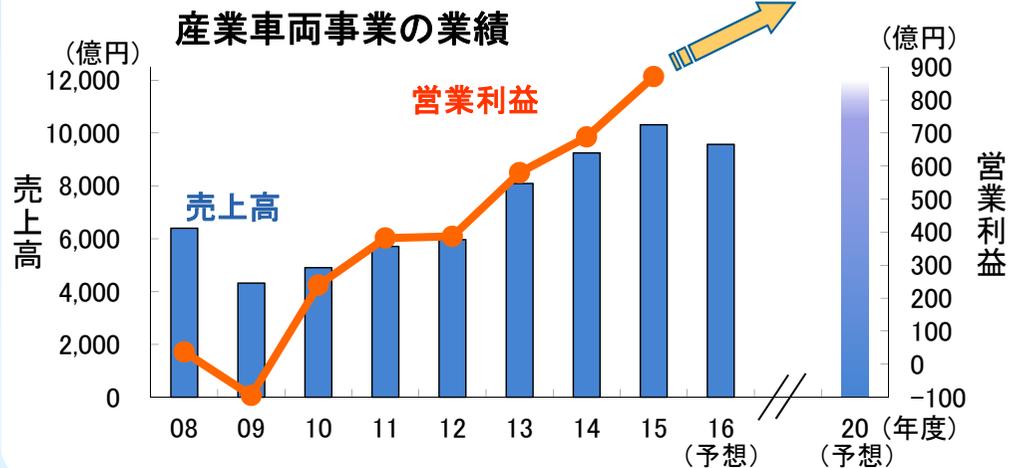
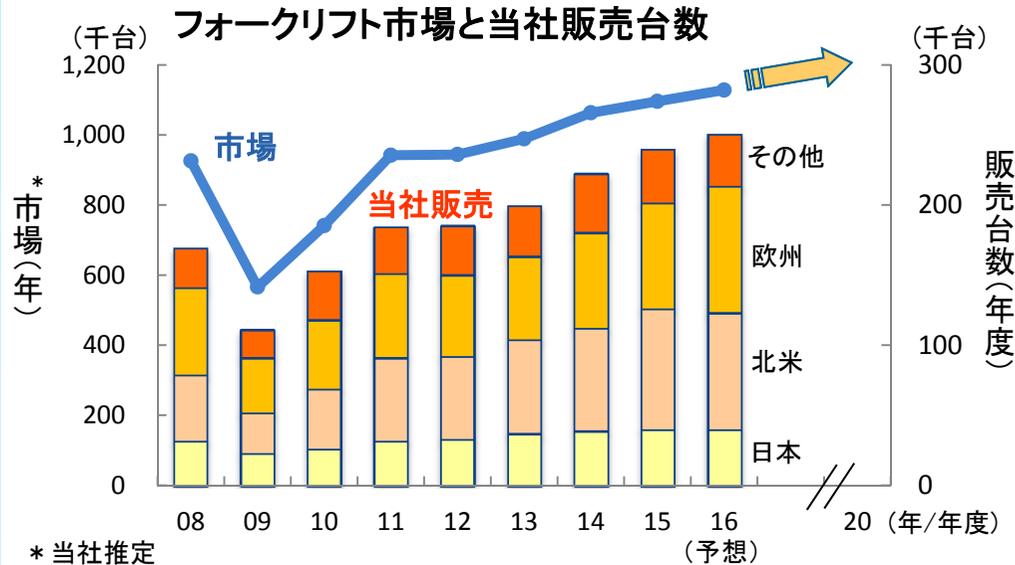
グローバルで景気の不透明感が続くなか、フォークリフト市場は前年比横ばい
 当社は、高い商品力や充実した販売ネットワークを強みに前年度を超える販売をめざす

(単位:千台)



産業車両

中期的成長に向けた取り組み



2020年フォークリフト市場の見通し

新興国を中心とした経済成長により緩やかながらも拡大

2020年に向けた当社の取り組み

- **他社を凌駕する商品開発**
 - ・3E技術を軸とした環境性能向上
 - ・コンポーネントの内製化による商品力の強化
- **物流ソリューション事業の強化・拡大**
 - ・ハードとソフトを組み合わせ幅広いソリューションを提案
 - ・情報通信技術の活用
 - ・多様なニーズへの対応
- **バリューチェーンの拡大**
 - ・大口顧客対応の強化
 - ・テレマティクスを活用したサービス力向上
 - ・販売金融事業の拡大

産業車両

他社を凌駕する商品開発

国際物流総合展で当社の総合力を訴求

3Eを軸とした環境性能の高いモデルを出展

(2016年9月13日～16日)



「エンジン車、電動車、次世代車」のフルラインナップで紹介



エンジンフォークリフト
(GENEO)

- ・自社開発の
クリーンディーゼルエンジン、
ターボを搭載
- ・低燃費、低エミッションを実現

エンジン

- ・連続稼働を実現
- ・管理工数が減少
- ・テレマティクスT_Siteを標準装備



リチウムイオンバッテリー搭載
電動フォークリフト

リチウム
イオン



電動フォークリフト
(GENEO-Ecore)

- ・自社開発の
高効率モーターなどを搭載
- ・稼働時間の延長による
エネルギーコストの低減

電動

燃料
電池

- ・2016年11月に販売開始予定
- ・優れた環境性能
- ・3分で燃料充填が完了する
高い利便性



燃料電池フォークリフト

産業車両

他社を凌駕する商品開発

コンポーネントの内製化による商品力の強化

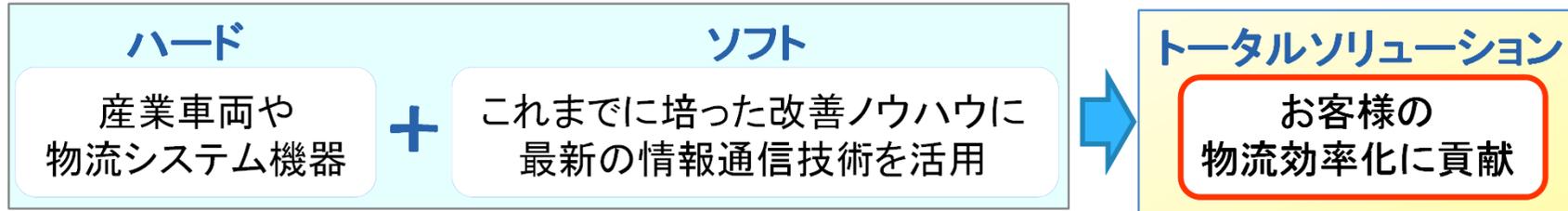


フォークリフトで培った
技術・信頼性の高いコンポーネントを活用し、
今後は他業界への拡販も検討

産業車両

物流ソリューション事業の強化・拡大

フォークリフトなどのハードにソフトを組み合わせ、お客様の物流効率化に貢献



産業車両

物流ソリューション事業の強化・拡大

ヤマトロジスティクス(株)様の物流センター導入事例

物流センターの構築から運用、継続的な改善まで、
お客様の物流をトータルでサポート



ヤマトロジスティクス(株)様
羽田カゲート



- ・ お客様特有のニーズに的確に対応
 - 短時間での大量出荷
 - 新商品発売時などでの柔軟な対応
- ・ スマートホンや発信機を組み合わせたIoTを活用し、リアルタイムでの進捗状況確認を実現
- ・ 稼働後にもフォローを行い、効率化の提案を継続的に実施

産業車両

物流ソリューション事業の強化・拡大

テレマティクスによる物流改善

情報通信技術を活用し、お客様ごとに最適な
機台管理サービスを提供



稼働状況の 管理

・ 機台ごとの稼働状況の見える化により、
稼働率と生産性を向上

機台への衝撃 の検知管理

・ 衝撃の履歴把握により、安全運転の支援と
メンテナンスコストの削減に貢献

オペレーター アクセス管理

・ 個人認証機能により各オペレーターの運転
状況が把握でき、安全・省エネ運転を促進

機台の 診断機能

・ モバイル端末でトラブル情報を把握すること
により、メンテナンスの対応を迅速化

欧米の大手スーパーマーケットチェーンや物流事業者、
日本の大手食品卸会社などが導入

お客様の物流効率化を実現するソリューションビジネスを拡大

産業車両

物流ソリューション事業の強化・拡大

お客様の多様なニーズに対応 —納骨堂への展開—

 <p>伝燈院 (東京都港区)</p>	 <p>龍生院 (東京都港区)</p>	 <p>安養院 (東京都品川区)</p>	 <p>光明寺 (東京都渋谷区)</p>
 <p>成勝寺 (東京都世田谷区)</p>	 <p>光明寺 (東京都荒川区)</p>	 <p>宗三寺 (神奈川県川崎市)</p>	 <p>妙清寺 (神奈川県横浜市)</p>
 <p>光明寺 (千葉県千葉市)</p>	 <p>勝楽寺 (愛知県名古屋市)</p>	 <p>唯信寺 (広島県広島市)</p>	 <p>佛母寺 (福岡県北九州市)</p>
 <p>宮崎公園墓地 (宮崎県)</p>		<p>自動倉庫のノウハウを活用 国内シェア70% (推定)</p>	

産業車両

バリューチェーンの拡大

お客様ニーズの変化に対応した販売・サービス活動の促進

● 大口顧客への対応強化

- ・複数の国・地域に拠点を持つグローバル企業の一括窓口である「キーアカウントマネージャー」の対象企業を倍増し、大口顧客との関係を一層強化
- ・物流拠点の新增設に対応し、ソリューション提案の取り組みを強化

● サービス力向上の取り組みを推進

- ・テレマティクスを活用により、スピーディかつ適切なメンテナンスを実施

フォークリフトの自己診断機能で検出したエラー内容を、テレマティクスにより遠隔地から把握

必要な準備をした上で、お客様を訪問

当社の強み

- ・複数拠点・機台のデータの一元管理
- ・収集データの分析力と新たな提案 など



テレマティクスを活用した
アフターサービス



TMHA(オーストラリア)での
サービススキルコンテスト

産業車両

バリューチェーンの拡大

販売金融事業を主要国から段階的に拡大し、グローバルに展開

<米国TICF>

2016年9月移転完了。10月開所式



	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
北米		★ 15/10 米国 TICF稼働開始				
		▼ 16/9 テキサスへ事務所移転完了、本格稼働				
		メキシコ TMH Capital稼働				
欧州		TMHCF フランス支店稼働				
		★ 16/4 TMHCF ドイツ支店稼働				
		☆ TMHCF イタリア支店稼働				
その他						新興国などへの展開を検討中

今後は欧州や新興国で
取り組みを拡大し、
グローバルで販売金融を強化



自社対応の強化により、
お客様の幅広いニーズへ対応し、
アフターサービスや中古車などを含めた
バリューチェーン拡大をはかる

Ⅱ. 中期的な取り組み

産業車両

コンプレッサー

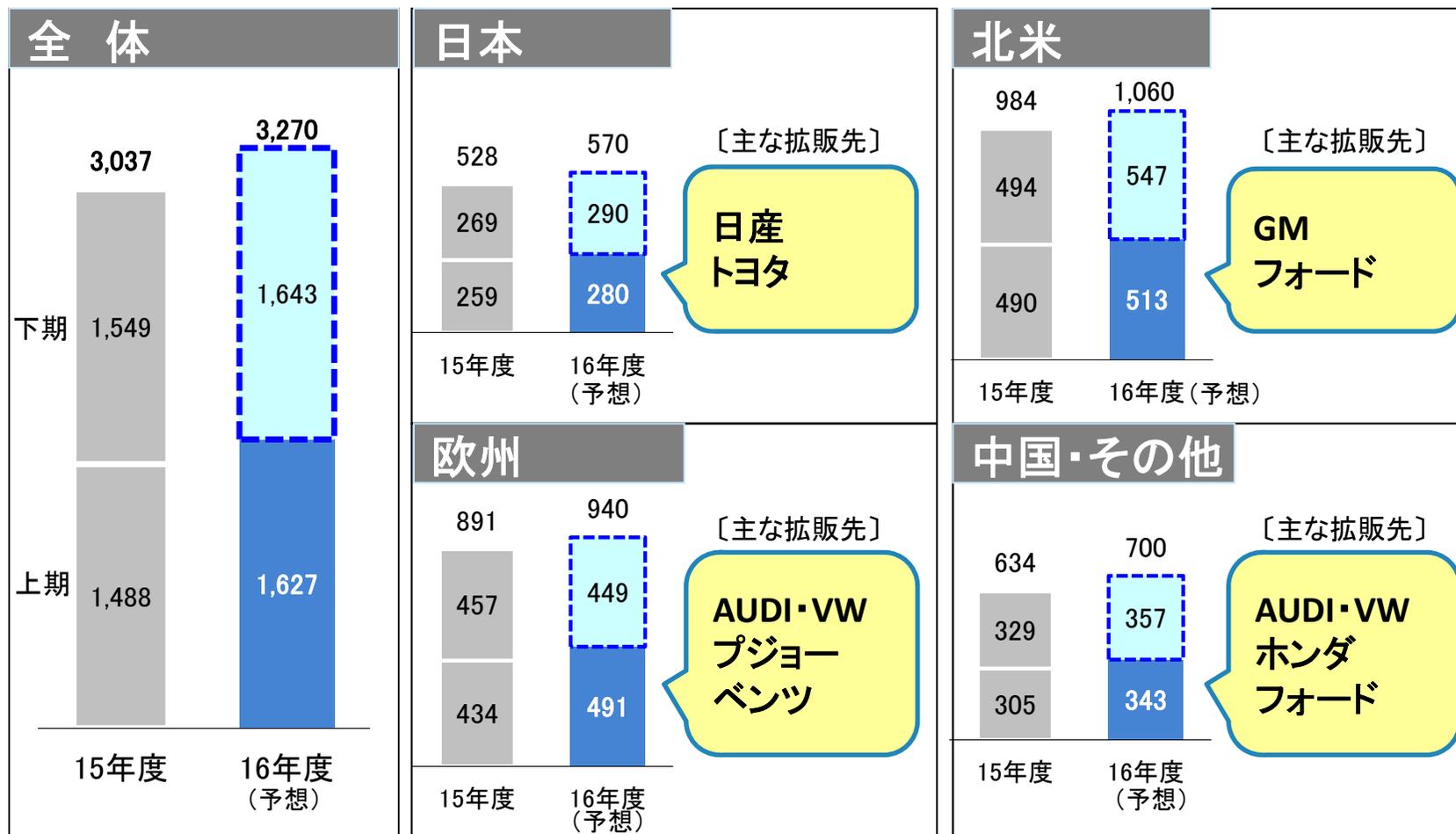
1. 足元の販売見通し
2. 中期的な事業成長のイメージ
3. 省燃費ニーズ拡大に対する取り組み
4. 評価設備の内製化による評価機能の強化
5. グローバル生産・供給体制の構築

コンプレッサー

足元の販売見通し

弱含む自動車販売の影響で、市場は先進国、新興国ともに前年並みが予想されるなか、
当社は、これまでの受注拡大により拡販

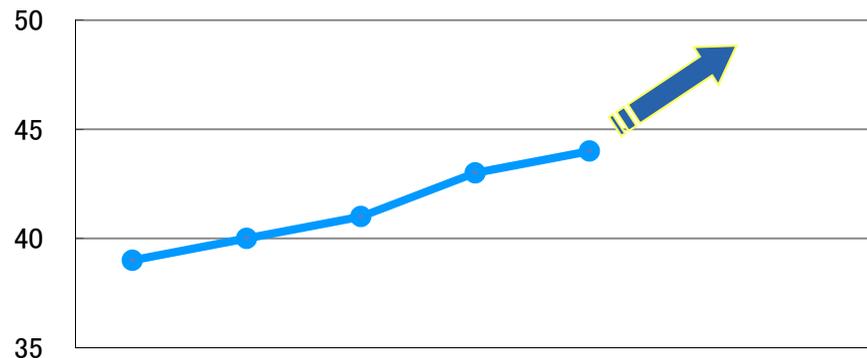
(単位:万台)



コンプレッサー

中期的な事業成長のイメージ

(%) 当社シェア



(万台) 当社販売台数



2020年 販売目標 4,000万台

- ・ 順調な拡販により、目標に向けて一定の目途づけ達成
- ・ 今後、中国・アセアンへの拡販により着実に目標を達成

地域別の取り組み

- 北米・欧州
 - ・ さらに高まる省燃費ニーズに対し、省燃費性能での差別化を一層推進
- 中国
 - ・ 中国市場で高まる高品質・高性能ニーズに対応し、可変タイプを拡販
 - ・ 地場カーメーカーへも可変タイプで参入
- アセアン
 - ・ ニーズの高い小型・軽量の固定タイプを中心として、高品質を強みに拡販

コンプレッサー

省燃費ニーズ拡大に対する取り組み

世界での環境規制強化

- ・先進国は今後さらに燃費規制強化
- ・新興国にも規制の導入が進む

中国でも規制強化の動き

① 燃費規制の強化

2016年1月に優遇措置を導入

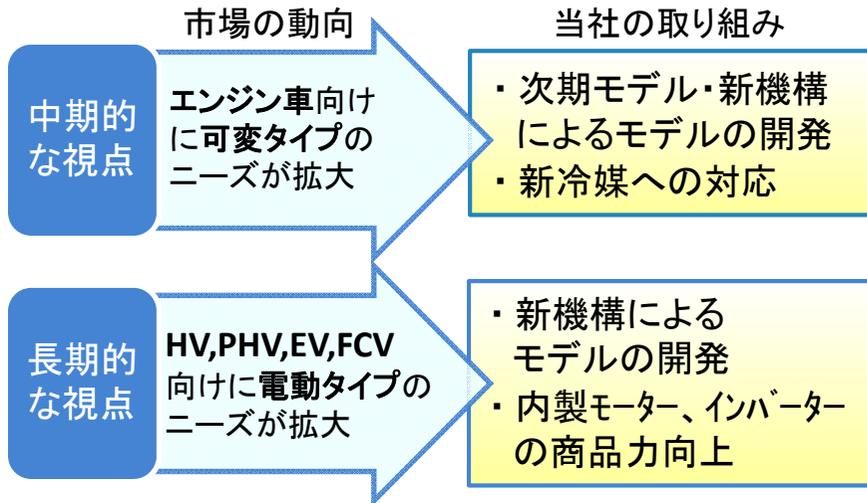
- ・革新的燃費改善技術の採用を優遇
- ・PHV, EV, FCVの販売を優遇

② 一定量のPHV, EV, FCV生産の義務付け

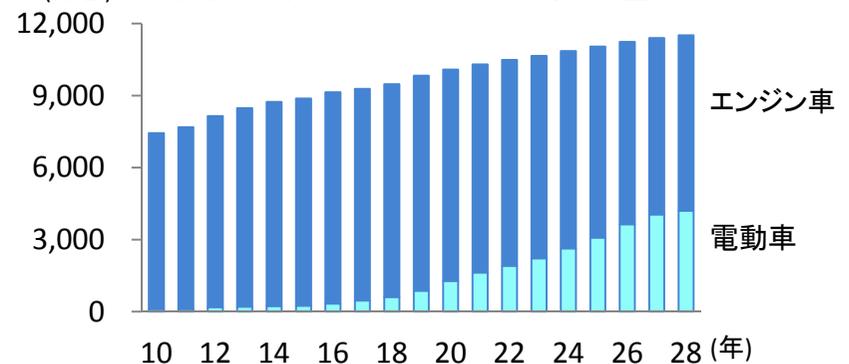
【上記の導入スケジュール】

	2016	2017	2018	2020 ~
①	第4段階燃費規制を実施 開始 → 2020年まで順次強化			
②	詳細案 発表予定	試行	正式 導入	中国全土に 拡大

ニーズ変化に対応する当社の取り組み



自動車グローバル市場予測（生産ベース）



〔出典〕IHS 2016年10月データ

コンプレッサー

評価設備の内製化による評価機能の強化

実車に近い環境でのコンプレッサー評価を海外展開



<当社の強み>

評価設備の内製化
による対応

ノウハウの流出防止

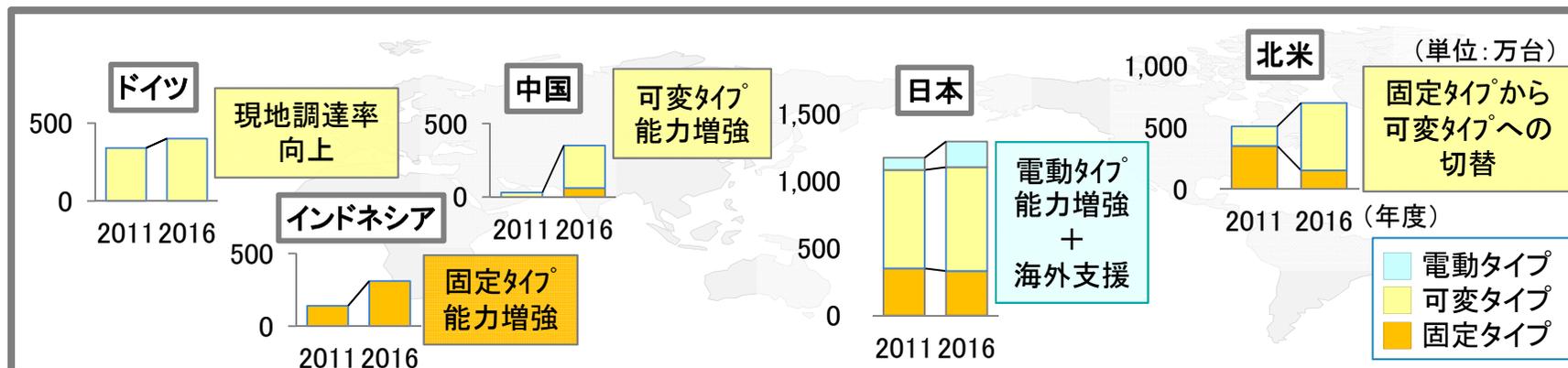
評価のスピードアップ

評価技術の向上による品質向上

コンプレッサー

グローバル生産・供給体制の構築

これまでに海外生産拠点の構えを強化



今後、海外拠点の生産性を一層向上

海外拠点間での
ベストプラクティス共有などによる
改善活動の強化 (北米・中国)

- ・ グローバル製造部長会議
- ・ リージョン別改善研鑽会

北米改善研鑽会の様子



現地拠点の講師による勉強会



各拠点のキーマンが集まる報告会

コンプレッサー

グローバル生産・供給体制の構築

国内生産拠点の機能を一層強化

マザー工場の機能強化

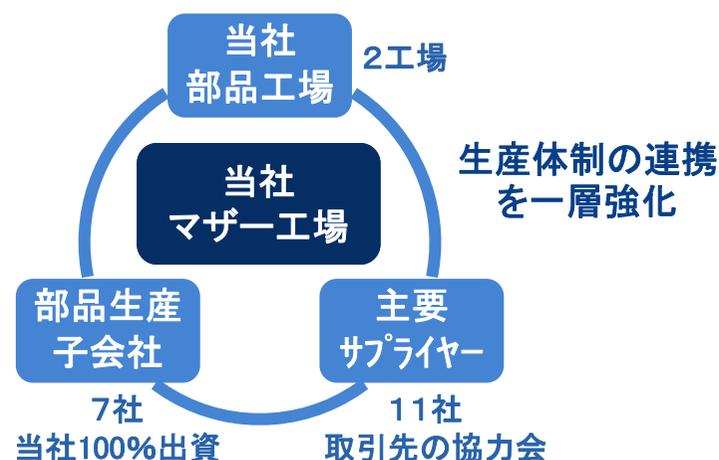
- ・新工法や革新生産ラインを開発し、グローバルに展開
- ・海外拠点における量変動や省燃費・電動化などのニーズ変化に対するバックアップを強化
- ・人材育成の支援

高品質で安定したグローバル生産を支える国内での生産体制

- ・連結子会社や主要サプライヤーを含めたキーコンポーネントの内製化

- ・素材や部品からの品質作り込み
- ・当社と一体での原価改善

- ・品質の徹底的な向上
- ・技術のブラックボックス化



エンジン

事業の状況と今後の取り組み

力強い走りのディーゼル車は、今後も新興国を中心に商用車やSUV向けなどで一定の需要が見込まれる

- 子会社トヨタ インダストリーズ エンジン インディア(株)でGD型ディーゼルエンジンを生産開始 (2016年3月)

今後、現地調達率および生産性の一層の向上をはかる



GD型ディーゼルエンジン



トヨタ インダストリーズ エンジン インディア(株)

- ターボチャージャーの競争力を向上させ、今後、拡販をはかる



ターボチャージャー

GD型ディーゼルエンジン搭載車種



ランドクルーザープラド



イノーバクリスタ



ハイラックス

将来見通しに関する記述についての注意

このプレゼンテーション資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しのみで全面的に依拠することは控えてくださいますよう、お願いいたします。

実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替レートの変動などを含みます。

ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。